

騰文庫

五平三

13
2944
8



へ13
2944
8

特

通
一
下



昭和九年
七月九日
購末

倭文庫

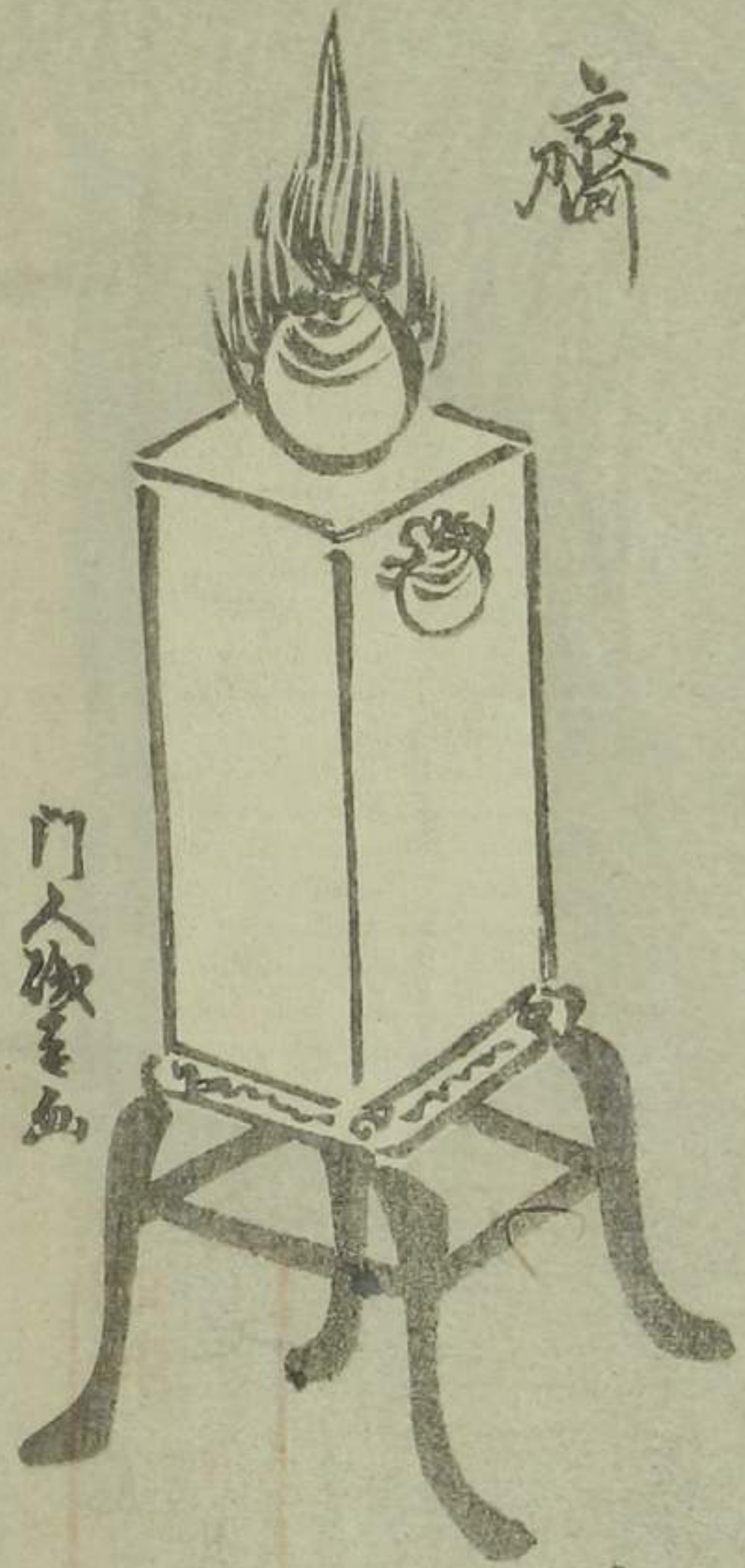
二拾二編上の巻

万真應筆作

一陽齋

曲臣國

一画



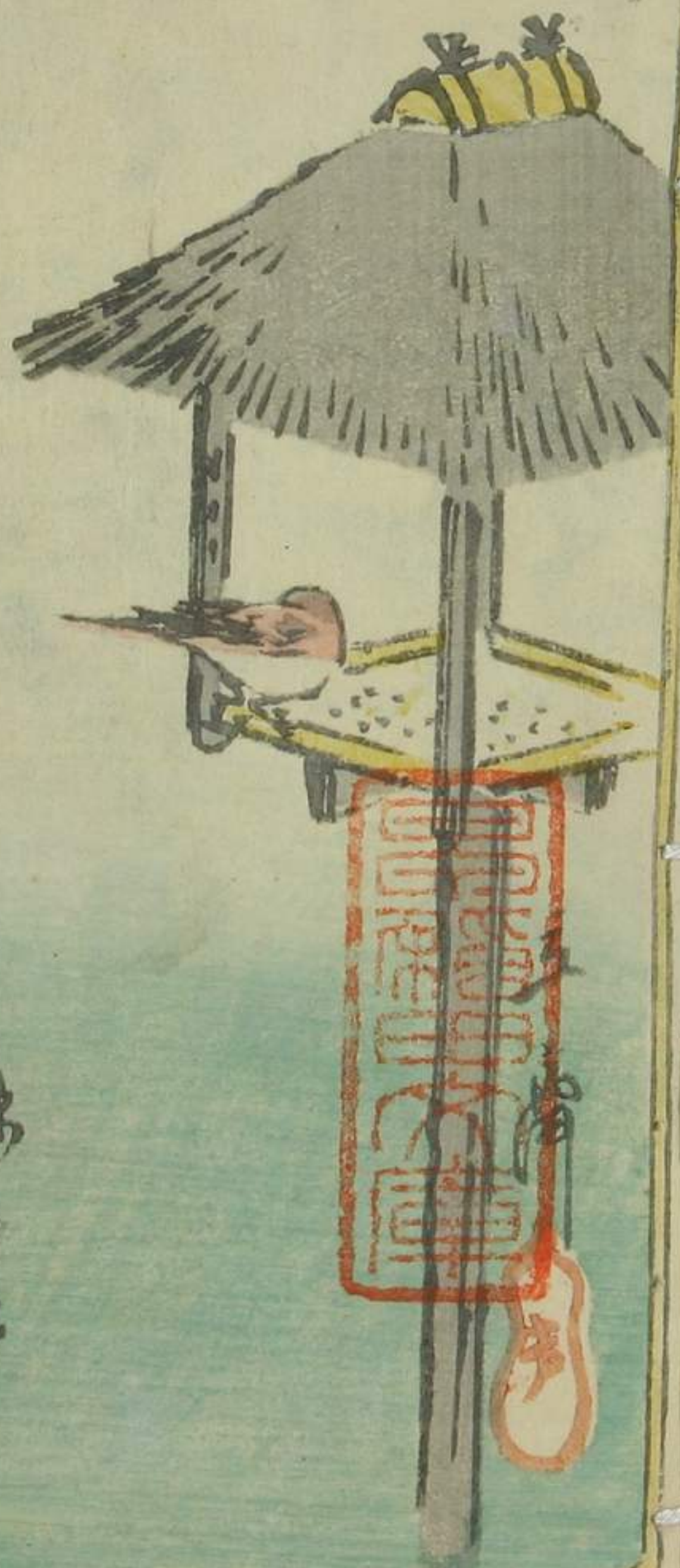
門人御筆画



錦堂 梓

倭文庫 北二編

此字



万真應筆作
一陽齋



倭文庫二拾二編



下

一陽齋豊國画



万亭應賀作

上



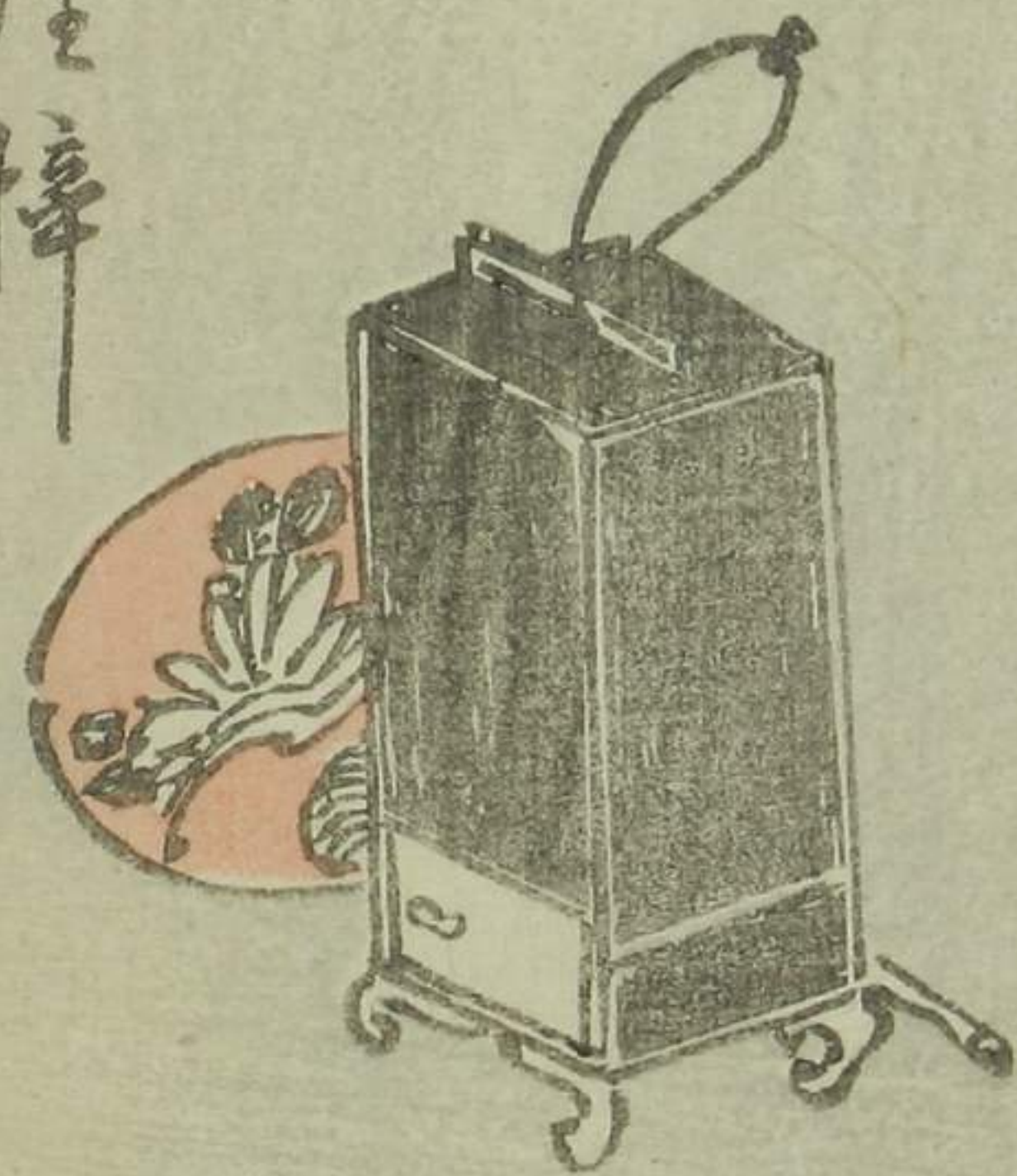
石舟堂 繪巻

二十二卷むす下巻

應賀さく

豊 園 画

上州屋梓



門人 敬 画

釋迦八相倭文庫二拾二編之叙

夫如来鹿野苑の説法三藏教と小乗の戒定恵及び三
六通を得る聲聞の修行を専説する又十二因縁六度の法門
も説く是を皆小乗教と云ふ又往昔一個の比丘あり玉人の家に
布施を乞ふ玉人國王の摩尼珠を磨磨門口小居る折節玉を
盤の上小措て比丘小食と施んと欲しと家内の奥へ入る跡也此家の
鷲王と吞主これを知む出て怒て比丘を絞縛しと曼を責比丘既打
擲を受けとも戒を護て鷲の罪を云む時小鷲自然死せしと云これらの
説小引ふけて惡逆大罪の達婆女太子禍と小獸と求て國と亡を古又ま
で此巻小終りて看官杜撰と厭むる尚高評を賜へと云云

嘉永五年壬子
孟陽新梓發行

万亭應賀誌









みけいんちのあつと... (Vertical text columns at the top of the right page, likely a dialogue or narrative.)

みけいんちのあつと... (Vertical text columns at the bottom of the right page, likely a dialogue or narrative.)



みけいんちのあつと... (Vertical text columns at the top of the left page, likely a dialogue or narrative.)

みけいんちのあつと... (Vertical text columns at the bottom of the left page, likely a dialogue or narrative.)



林文庫 二十一



林文庫 二十一



倭文庫



倭文庫



此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名は
 残っている。

昔、ある国に
 王様が居た。

その王様は、
 非常に賢明で、
 民衆を愛した。

ある日、
 王様が病に
 罹られた。

王様の病は、
 治らなかつた。

王様の病を
 治すため、
 王様が御用
 人達に命じた。

御用人達は、
 四方八方を
 探し回った。

すると、
 ある山奥に、
 仙人が居た。

仙人は、
 王様の病を
 治す薬を
 作り出した。

王様は、
 その薬を飲
 んで、病が
 治った。

王様は、
 仙人に感謝
 の言葉を言
 った。

仙人は、
 王様に、
 一つの戒め
 を授けた。

その戒めは、
 民衆を愛す
 ことである。

王様は、
 その戒めを
 心に記し、
 民衆を愛す
 ことになった。

その王様の
 故事が、
 今も語り
 継がれている。

徳川文庫 二十二

此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名は
 残っている。

昔、ある国に
 王様が居た。

その王様は、
 非常に賢明で、
 民衆を愛した。

ある日、
 王様が病に
 罹られた。

王様の病は、
 治らなかつた。

王様の病を
 治すため、
 王様が御用
 人達に命じた。

御用人達は、
 四方八方を
 探し回った。

すると、
 ある山奥に、
 仙人が居た。

仙人は、
 王様の病を
 治す薬を
 作り出した。

王様は、
 その薬を飲
 んで、病が
 治った。

王様は、
 仙人に感謝
 の言葉を言
 った。

仙人は、
 王様に、
 一つの戒め
 を授けた。

その戒めは、
 民衆を愛す
 ことである。

王様は、
 その戒めを
 心に記し、
 民衆を愛す
 ことになった。

その王様の
 故事が、
 今も語り
 継がれている。



此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名は
 残っている。

昔、ある国に
 王様が居た。

その王様は、
 非常に賢明で、
 民衆を愛した。

ある日、
 王様が病に
 罹られた。

王様の病は、
 治らなかつた。

王様の病を
 治すため、
 王様が御用
 人達に命じた。

御用人達は、
 四方八方を
 探し回った。

すると、
 ある山奥に、
 仙人が居た。

仙人は、
 王様の病を
 治す薬を
 作り出した。

王様は、
 その薬を飲
 んで、病が
 治った。

王様は、
 仙人に感謝
 の言葉を言
 った。

仙人は、
 王様に、
 一つの戒め
 を授けた。

その戒めは、
 民衆を愛す
 ことである。

王様は、
 その戒めを
 心に記し、
 民衆を愛す
 ことになった。

その王様の
 故事が、
 今も語り
 継がれている。

徳川文庫 二十二

此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名は
 残っている。

昔、ある国に
 王様が居た。

その王様は、
 非常に賢明で、
 民衆を愛した。

ある日、
 王様が病に
 罹られた。

王様の病は、
 治らなかつた。

王様の病を
 治すため、
 王様が御用
 人達に命じた。

御用人達は、
 四方八方を
 探し回った。

すると、
 ある山奥に、
 仙人が居た。

仙人は、
 王様の病を
 治す薬を
 作り出した。

王様は、
 その薬を飲
 んで、病が
 治った。

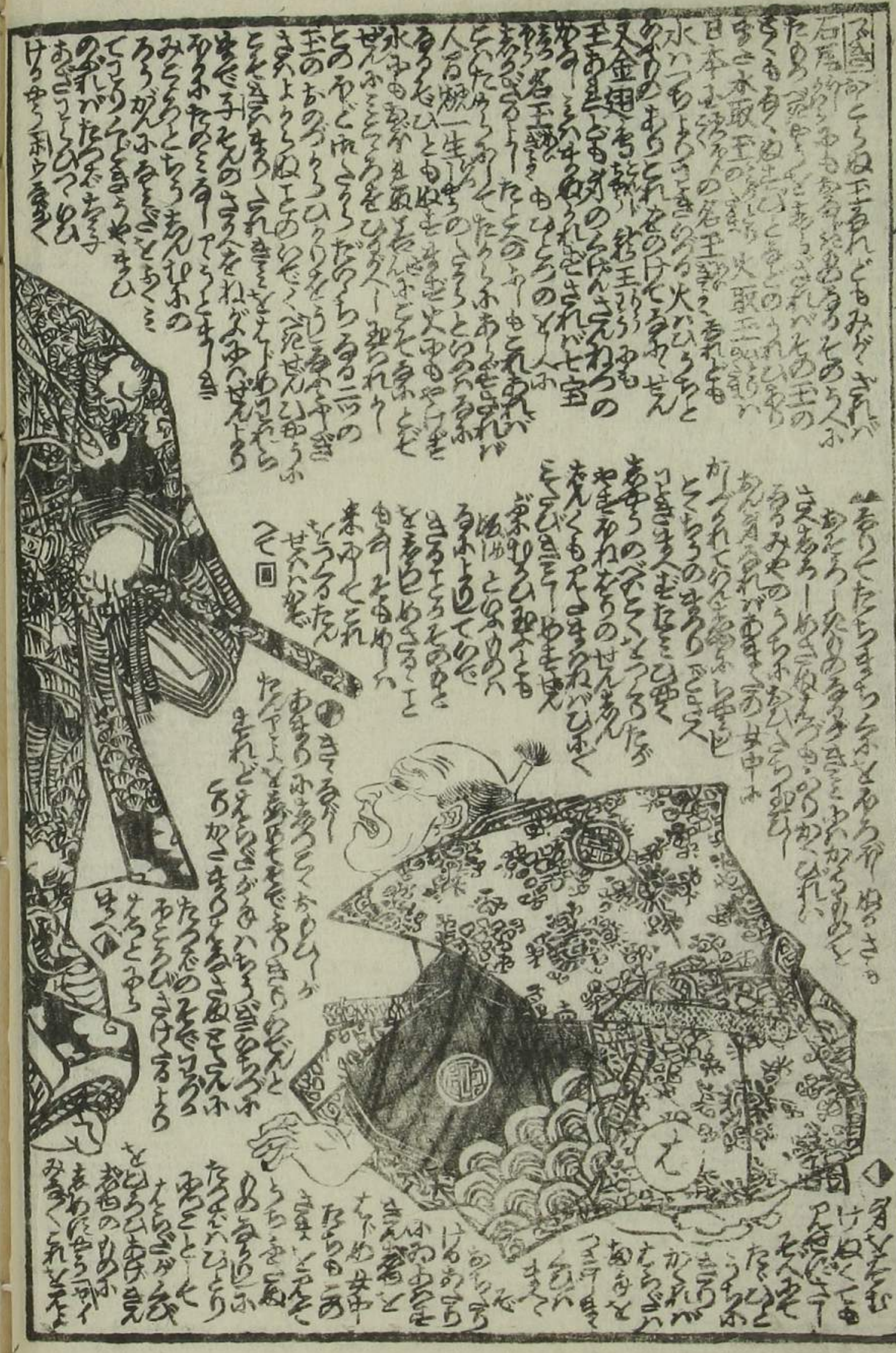
王様は、
 仙人に感謝
 の言葉を言
 った。

仙人は、
 王様に、
 一つの戒め
 を授けた。

その戒めは、
 民衆を愛す
 ことである。

王様は、
 その戒めを
 心に記し、
 民衆を愛す
 ことになった。

その王様の
 故事が、
 今も語り
 継がれている。





朱世元軍二二二



備後



珠女夜話 第二十二



應賀作豊國画

珠女夜話 第二十二

この世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや... 世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや... 世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや...



世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや... 世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや...



この世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや... 世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや...

世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや... 世の世は... 仙人の身とて... 山崎のあや...



木下

廿四

あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか
あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか

たつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか
あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか
あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか

あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか
あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか
あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか

あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか
あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか
あつちやうさゆけんかた
たもぢやうらうまひき
かまはらふのむわじか

Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the left page.



Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the right page.







傳文扇二五



徳川幕府 二五二

十七



備後守

七



龍ノ口ニ
 火ヲ吐ク
 龍ノ口ニ
 火ヲ吐ク
 龍ノ口ニ
 火ヲ吐ク
 龍ノ口ニ
 火ヲ吐ク

炎文車 下



炎文車 下

炎文車 下
 炎文車 下
 炎文車 下
 炎文車 下
 炎文車 下
 炎文車 下
 炎文車 下
 炎文車 下

炎文車 下

写の由神百類の寺法妙内の堀



堀内妙法寺

万亭應賀作



一陽齋豊国画

一陽齋豊国画
下景惠貫并
上の巻
二十三日
新文庫



輪重堂

倭文庫

二十三編

上の巻

万真應賀作
一陽齋豊国画

錦重堂板



玉網色

万

真

應

賀

万真應賀著
一陽齋豊国画

錦重堂

五



陽齋豊国画



万亭應賀作

下

倭文庫拾三編



上



画
錦産
下紙の編
雨畑を
下紙の編

釋迦八相倭文庫二拾三編叙

和毛野保苗婦茂登廻美知者於德懸禮土意奈志久藤井之津喜
遠名賀無流一最手短の悟也され天合宗の止觀と覺禪宗の本来
の面目と知念佛宗久我我入機法と悟真言宗の何字本不生とさとり日
蓮宗の妙法の三字と以て一流法華の悟とされ是皆信心偈仰とせね
々往生の浄土と除て何所あらん奴戲辨史も是亦等々信心偈仰とせね
と何の如く二趣向の替れと通る所の勸善の道を正しく一向宗希の唯評判の
當と除て何のあらん斯と神の冊子の神を滅ヨ不尊崇仏の草紙の佛を
敬ひ餅屋の双紙の酒屋と難り酒屋のさし餅屋と難る見の柏の裏表
と其日々々の風不任寺戲作者も亦君子に忘れて豫名と末世の残ん而已

嘉永五年壬子正月吉日發行

万亭應賀誌







雪山閻梨

四天王内多門天



悉達太子の雪山
閻梨雪山の法臺
を摩訶薩如意
の奇特を頭一魔
の尊身

四天王内持國天

信長天皇二十三年



下は...
 上は...
 此の...
 人の...
 世の...
 心は...
 身は...
 命は...
 運は...
 縁は...
 業は...
 徳は...
 福は...
 禄は...
 利は...
 名は...
 位は...
 官は...
 爵は...
 貴は...
 富は...
 貴は...
 尊は...
 卑は...
 下は...
 上は...



此の...
 人の...
 世の...
 心は...
 身は...
 命は...
 運は...
 縁は...
 業は...
 徳は...
 福は...
 禄は...
 利は...
 名は...
 位は...
 官は...
 爵は...
 貴は...
 富は...
 貴は...
 尊は...
 卑は...
 下は...
 上は...

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page, likely serving as a title or introductory text for the illustration below.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page, providing context for the illustration.



Small vertical text on the far left edge of the page, possibly a page number or a reference mark.

傳文庫二五三

應賀作豊国画

此の國の豊は、昔も今も、
 天の恵みによるものなり。
 然るに、人々の怠りや
 凶悪の行は、天の怒り
 招き、凶作の憂に陥る
 事あり。故に、天を敬み、
 徳を修むれば、豊作の
 福は、必ずや降るとす。



正合利の
 師範校
 の所蔵
 文庫
 第二五三
 巻之三
 第廿一
 頁



此の國の豊は、昔も今も、
 天の恵みによるものなり。
 然るに、人々の怠りや
 凶悪の行は、天の怒り
 招き、凶作の憂に陥る
 事あり。故に、天を敬み、
 徳を修むれば、豊作の
 福は、必ずや降るとす。



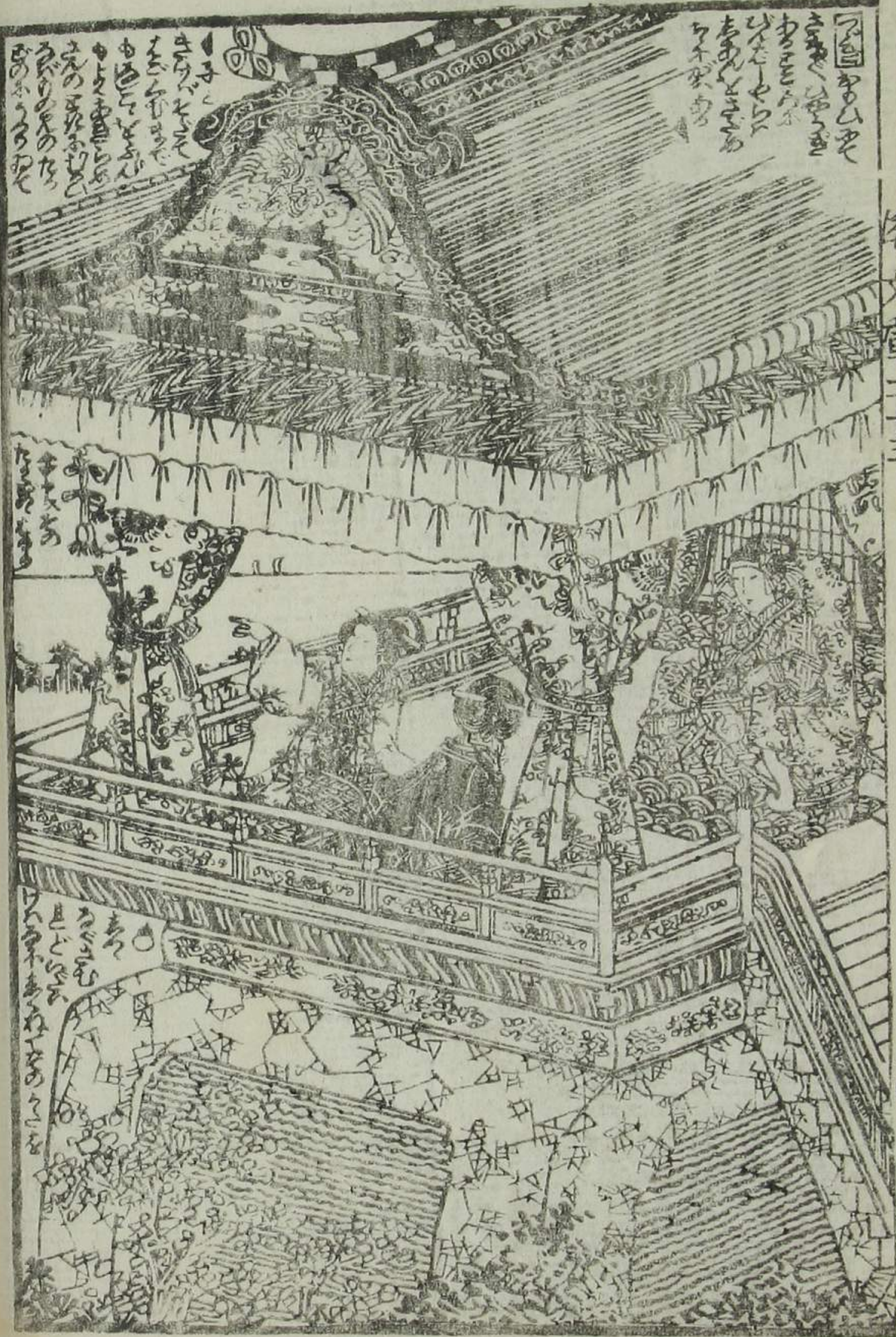
此の國の豊は、昔も今も、
 天の恵みによるものなり。
 然るに、人々の怠りや
 凶悪の行は、天の怒り
 招き、凶作の憂に陥る
 事あり。故に、天を敬み、
 徳を修むれば、豊作の
 福は、必ずや降るとす。



Handwritten text in a vertical column, likely a preface or introductory text, written in a cursive style.



Small vertical text on the left margin of the landscape illustration.



Handwritten text in a vertical column at the top right of the illustration, likely a title or a specific note.

Small vertical text on the right margin of the illustration.

Small vertical text at the bottom right of the illustration.



Vertical text on the left side of the illustration, likely a chapter or scene title.

Main vertical text block on the left page, containing several columns of Japanese characters.



Vertical text on the right side of the illustration, likely a chapter or scene title.

Main vertical text block on the right page, containing several columns of Japanese characters.

Vertical columns of Japanese text, likely a chapter introduction or commentary, written in a cursive style. The text is arranged in approximately 15 columns, reading from right to left. A small square seal is visible at the bottom left of the text block.



Vertical columns of Japanese text, continuing the narrative or commentary. The text is arranged in approximately 15 columns, reading from right to left. A small square seal is visible at the bottom right of the text block.









庶民著
 剛貞画
 錦堂を揮

二十四夜
 万亭

五


万亭應賀作の陽齋豊國画

此の巻は...
 万亭の...
 陽齋の...
 豊國の...
 此の巻は...
 万亭の...
 陽齋の...
 豊國の...



のたひと...
 万亭の...
 陽齋の...
 豊國の...

万亭應賀作

歌川國貞画

倭文庫二拾編



下



上

五世法皇御製

大正海

子乃妻

下ははる

形利

銚子堂

應賀作

貴版

壹國画

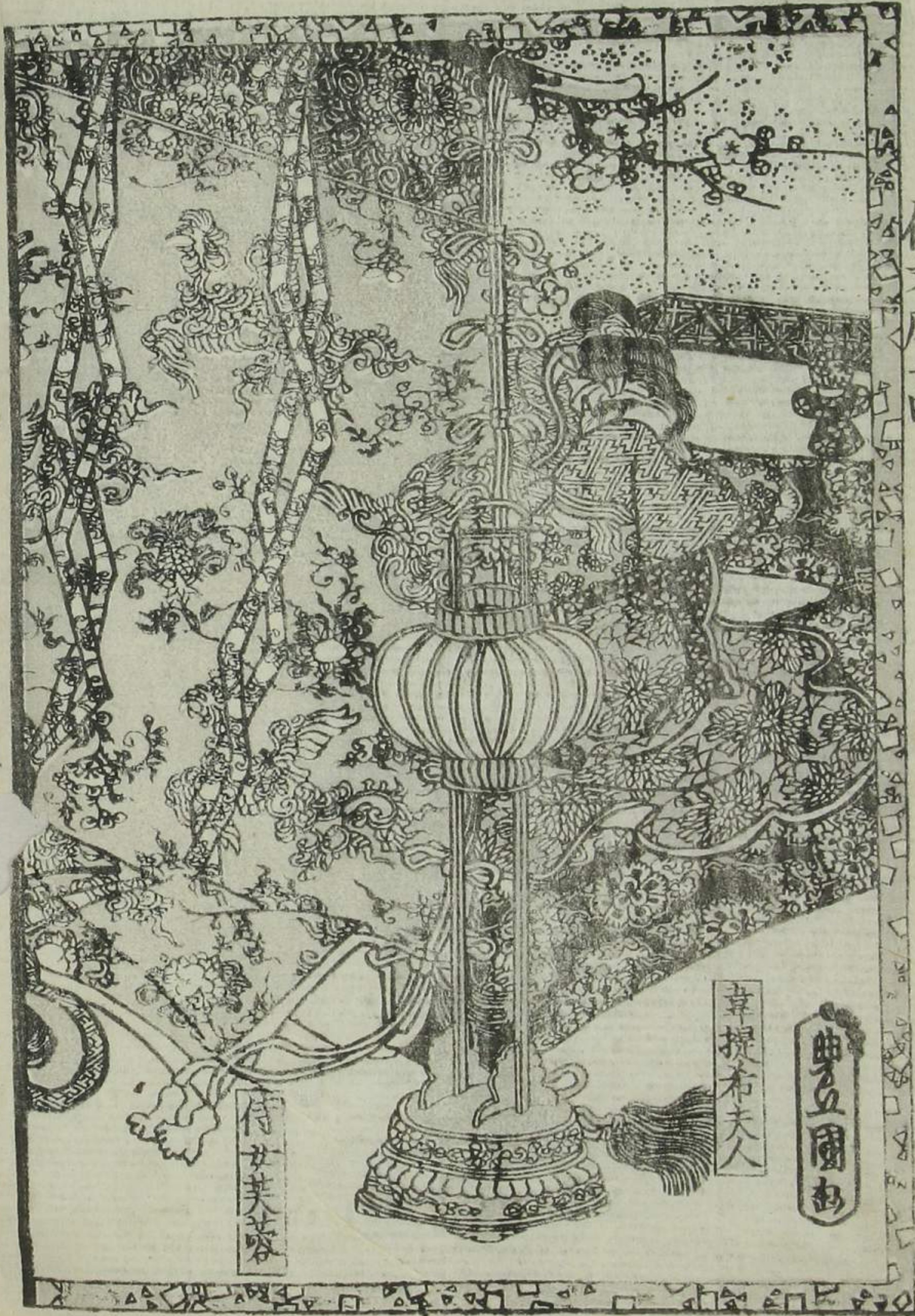


釋迦八相倭文庫二拾四編序

夫佛ハ三身アリ第一ハ法身毘盧遮那佛是ハ青黃赤白の色ハ
 非ビ又長短方圓の形ハ非ビ中道實相の理體ヲ第二ハ報身盧舍
 那佛是ハ如來内證の自受法樂の智慧メケ報身ハ自受用他受用ヲ
 華嚴の教主ハ他受用報身ヲ是ハ音聲無邊色像無邊の身ヲ
 三ハ應身釋迦牟尼佛是ハ衆生ハ應同クハ相成道の身ヲ我ハ卷下
 四編ハ至テ全部四十八冊トス故ハ彌陀の四十八願ト表シテ其ハ正覺成佛ヲ
 著シ是ハ兼テ淨土の法文三部の妙典觀無量壽の説頻婆娑波羅訶
 逆子阿闍世太子の最初ト終ると爾カ

嘉永六癸丑年
 孟陽吉旦發行

万亭應賀誌





悉達太子



十方三世諸佛

諸大神

羅刹の内證
羅六師耶
本来比盧舍那佛

悉達太子の靈
山崩裂四句の
文半偈の爲
小羅刹の
一身を投ずる
因位の承時を
かざる

曲五回





あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの

あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの

あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの



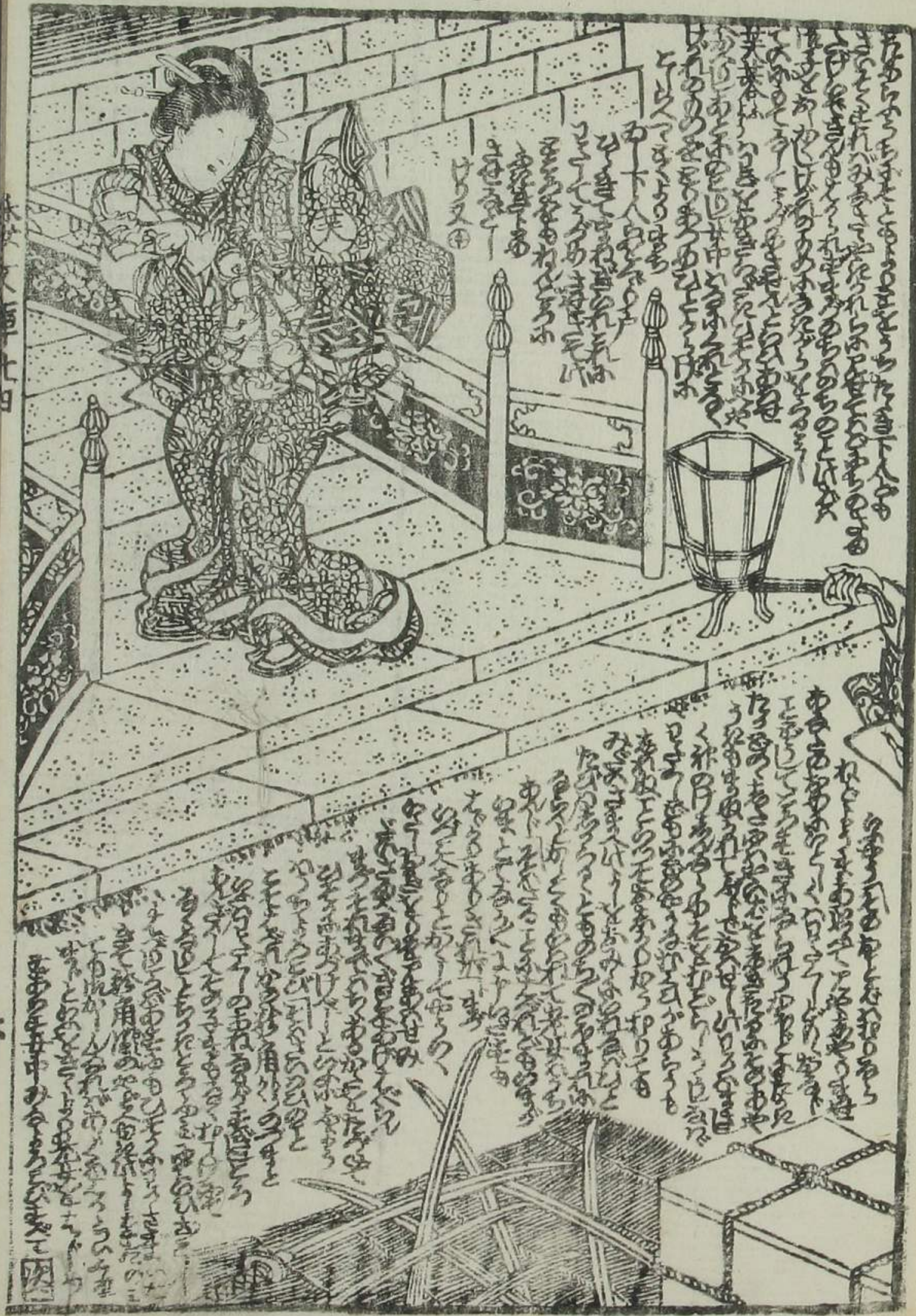
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの

あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの

あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの

あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの
あつちの
まはりの

花王



備前屋敷

二

傳文庫



Handwritten Japanese text in vertical columns, located above the illustration of the woman.

Handwritten Japanese text in vertical columns, located below the illustration of the woman.



Handwritten Japanese text in vertical columns, located above the illustration of the woman.

Handwritten Japanese text in vertical columns, located below the illustration of the woman.



Vertical Japanese text columns located at the top of the left page, providing a narrative context for the scene.

Vertical Japanese text columns located at the bottom of the left page, continuing the narrative.



Vertical Japanese text columns located at the top of the right page, providing a narrative context for the scene.

Vertical Japanese text columns located at the bottom of the right page, continuing the narrative.

Vertical Japanese text on the right edge of the right page, likely a page number or title.



福 (三)

大御前 御座りて... 御膳は... 御衣は... 御持物は... 御名は...



御座りて... 御膳は... 御衣は... 御持物は... 御名は...

徳川文庫九四

應賀作 二 國貞画

子爵の大御前... 御座りて... 御膳は... 御衣は... 御持物は... 御名は...



御座りて... 御膳は... 御衣は... 御持物は... 御名は...

徳川文庫九四



徳川文庫七四

三



徳川文庫七四

三



この世の事... 天の御魂... 月の光...

天の御魂... 月の光... 天照大神...

五つ... 月... 天照大神...

この世の事... 天の御魂... 月の光...

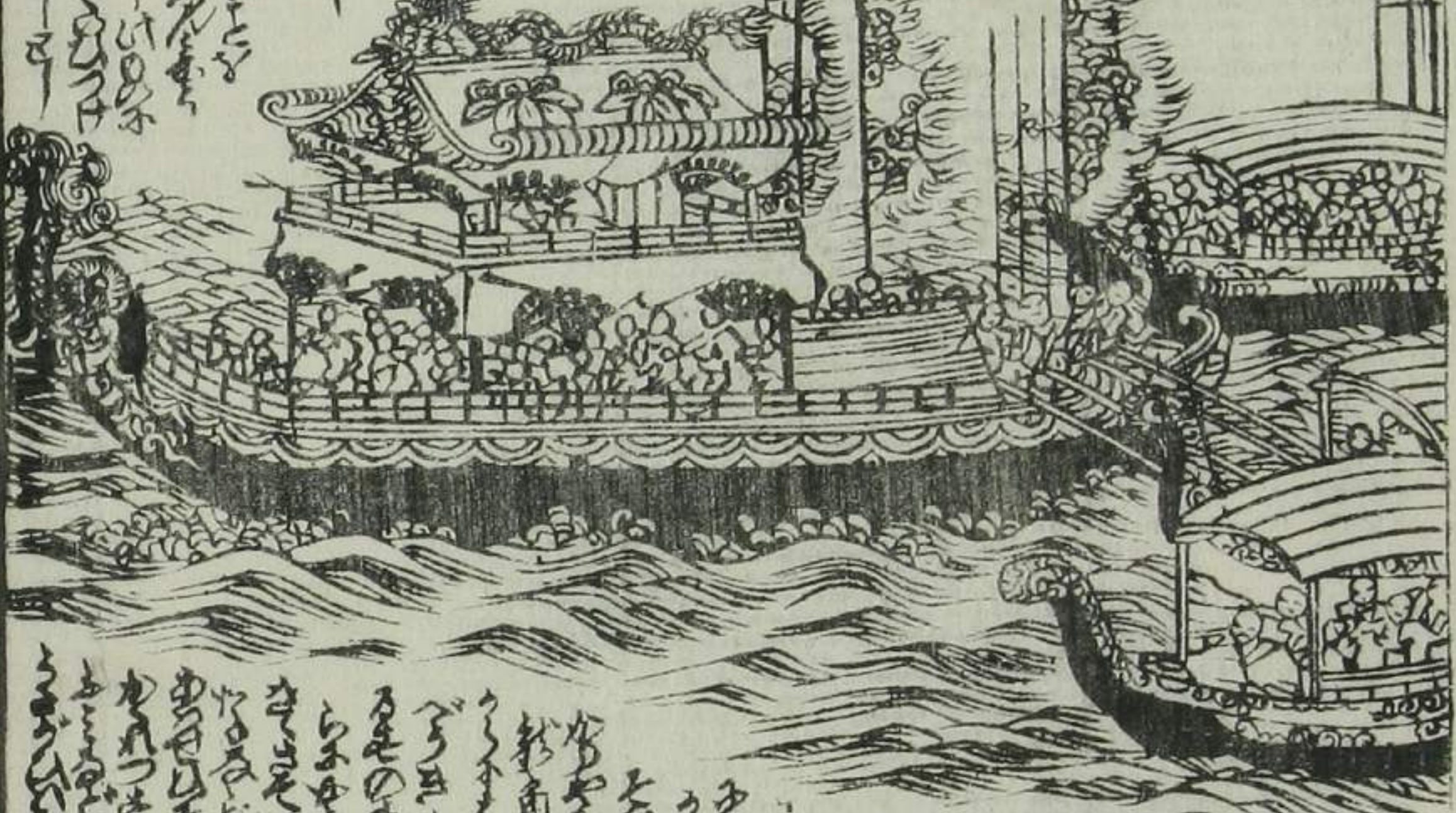


この世の事... 天の御魂... 月の光...

御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道

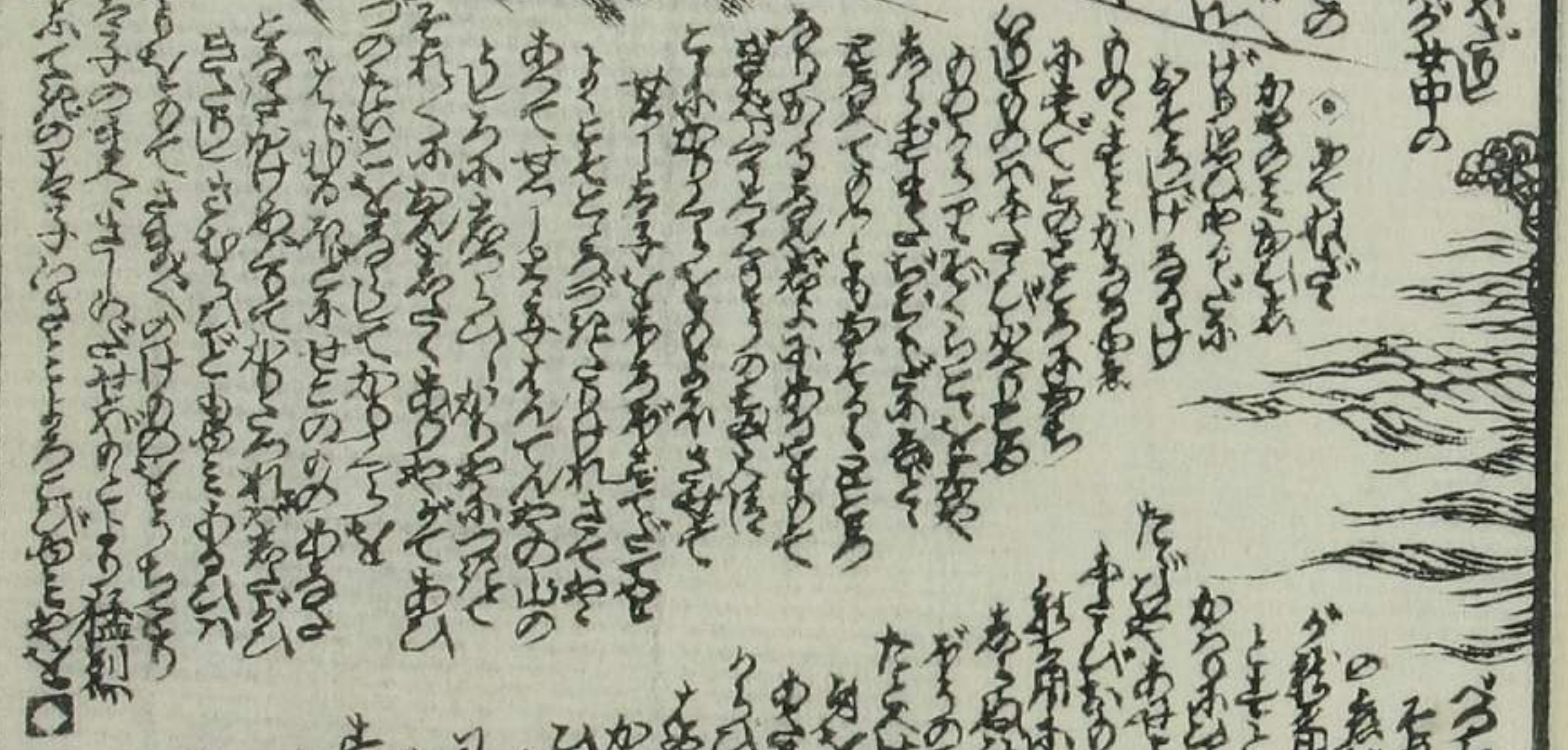
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道

御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道



御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道

御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道



御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道
御成道御成道

御成道御成道

御成道御成道

待遊戯抄
 待遊戯抄



男
 男の
 男の

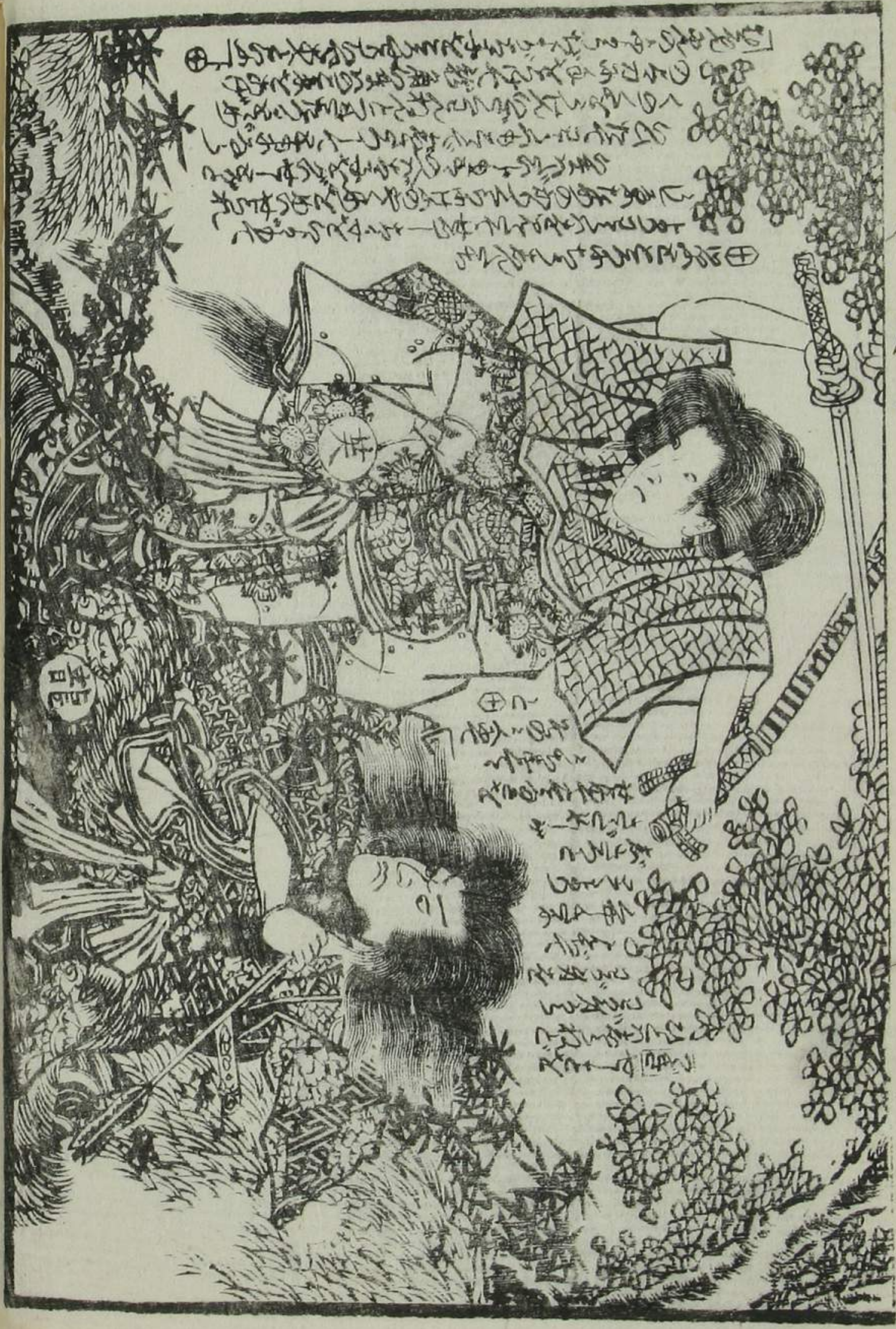
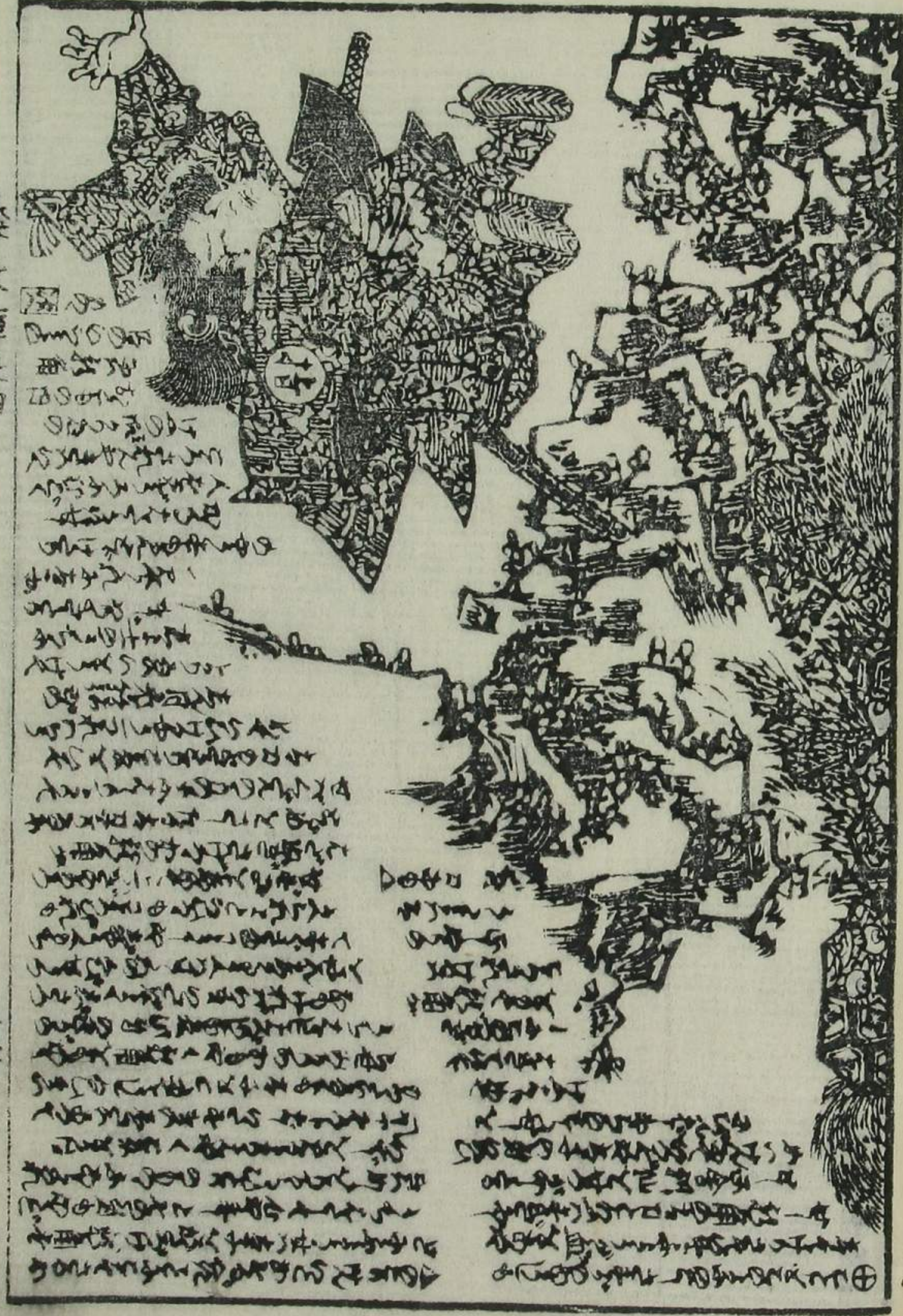
男の
 男の

男の
 男の
 男の



指

男の
 男の
 男の

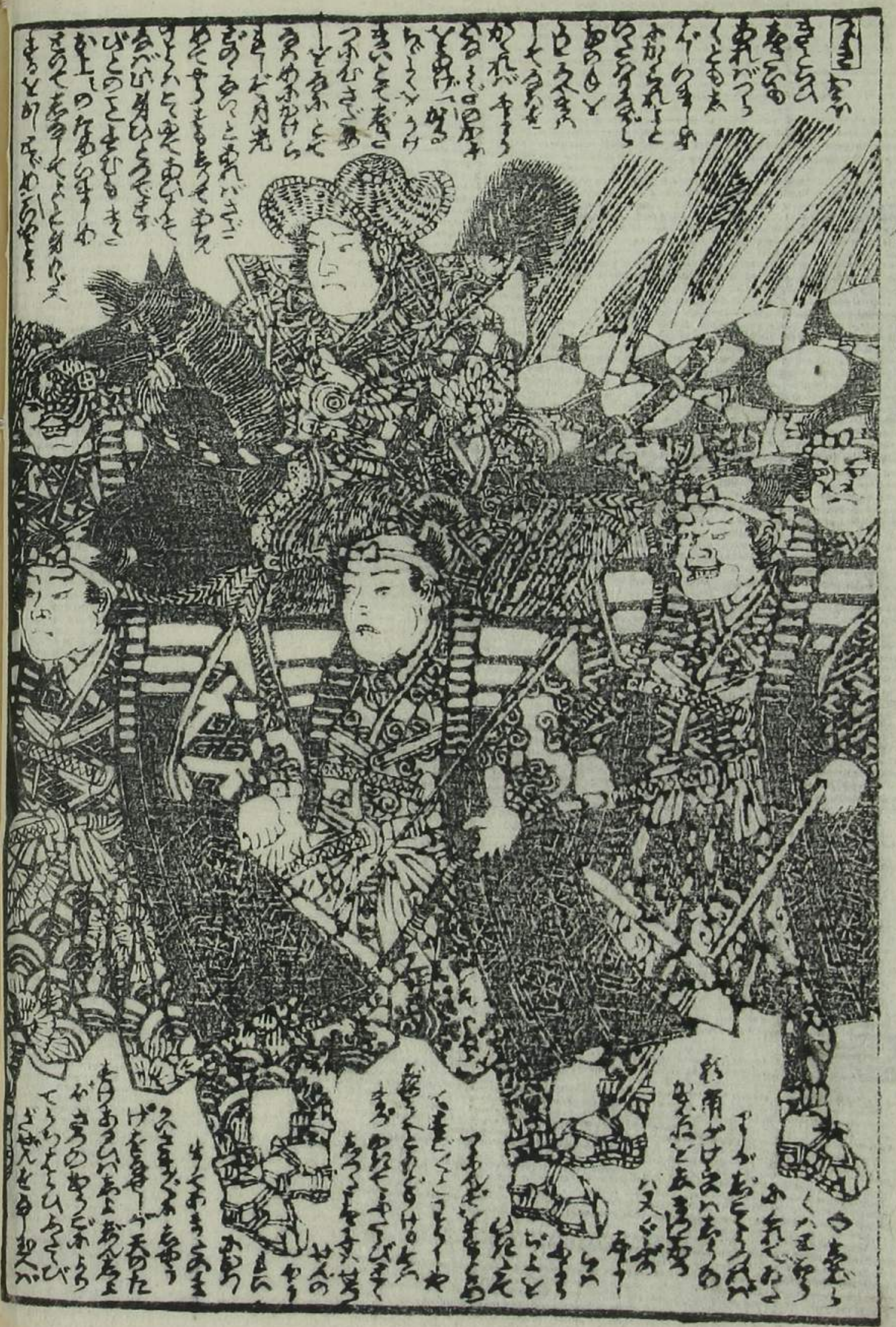


此圖乃畫一男一女二人，立於林間。男者持長杖，女者持劍。二人皆衣紋飾之袍。



しんがのくさ
つふた
まががさ
しんがのくさ
つふた
まががさ
しんがのくさ
つふた
まががさ

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた



あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた



女
車
上
四

二十



佛
身
大
尊
大
師

三
十

自序
此書は...



万亭應賀作



二代歌川國貞画

倭文庫

二十四編

壬子ノ歳 上之卷

五孟陽 發販

万亭應賀作

一陽齋豊國画

人形町 上州屋重藏梓



